

(一般質問)

渡辺重雄 1 総合計画策定と今後の行財政の進め方について

目標と施策を盛り込んだ新しい市の姿が「新市建設計画」で示され、それなりの息吹を感じながらスタートした「翠の交流都市」が1年を経過しました。

特に、合併初年度の昨年は、市長を先頭に各地で「住民懇談会」が開かれ、新市建設計画に基づく各種の施策と財政計画の説明が行われ、住民に理解と協力を求められました。

そして今年度、この計画を基本に新市の将来像を具体的に描く総合計画が策定されるわけですが、このほど示された中間答申の財政予測では、新市建設計画とはかなりのギャップがあるのではないかと受けとめざるを得ません。

しかしながら、これも過渡期の現実として受け止め、この後は実状を検証するとともに思い切った行財政改革を実施して「まちづくりの目標」に向かい、各施策を達成する必要があると考えます。

特に、総合計画を進める上で、効率的、総合的な市政運営を図るために、これまでの行政の仕組みや発想、手法を抜本的に改革し、同時に収支の均衡を持続できるよう「行政改革実施計画」と合わせて、具体的で実効性のある、財政の健全化に向けた取り組みが必要と考えます。

このような観点に立ち、下記の点についてお伺いいたします。

- (1) 総合計画策定の視点について
- (2) 新市建設計画と総合計画の整合性について
 - 財政予測の大幅な見直しについて
 - 新市建設計画や市長の公約した施策の遂行について
 - 合併による行財政面での具体的効果について
- (3) 財政健全化のための取り組みについて
 - 財政健全化の指標と目標値について
 - 行財政改革実施計画による財政改善効果について

平野久樹 1 猿害等の野生動物による農作物被害への対策について

市内（特に青海地区、糸魚川地区）各所でサルによる農作物への被害が出ており、住民による対策が取られているケースも見受けられます。又、熊、カモシカ、イノシシ等による被害も報告されており、今後の被害拡大も予測されることから行政の対応について伺います。

- (1) 当市における野生動物の実態はどの程度把握されているのか。
- (2) 農作物や住民への被害状況について。
- (3) 現状までの取り組み状況は。
- (4) 今後糸魚川市としての対策はどのように考えているのか。

2 JR 青海駅南北市道の改良について

JR 青海駅は昭和 43 年に現在の橋上駅舎となりましたが、周辺の環境は当時と比べ大きく変化しており、改良が望まれていますので、以下の点につき伺います。

- (1) 青海駅南北市道の階段について問題意識は持っていないか。
- (2) 改善に向けた前向きな検討は出来ないか。

斉藤伸一 1 自殺予防対策について

この数年、自殺による死亡が全国的に増加しており、大きな社会問題となっております。本市においても、自殺者及び自殺と思われる死亡者がいる事から、下記の項目にて伺います。

- (1) 自殺の現状（自殺死亡数、原因・動機）。
 - (2) 自殺予防対策の取り組み状況は。
- ## 2 2007 年度実施の全国一斉学力テストについて

小学 6 年と中学 3 年を対象にした、全国的な学力テストが 2007 年 4 月に行われる事になった。

義務教育の機会均等や一定の教育水準が確保されているかを把握し、教育施策の見直しにつなげる事を目的としているが、本市における学力テスト実施についての考えを伺います。

- (1) 学校間の過度の競争を起こさない取り組みは。
- (2) テスト結果の公表を行うのか。
- (3) テスト結果をどう活かしていくのか。

3 民間企業の再生支援策について

新聞報道等によれば、新潟県内で最も古い市内の酒造会社が、営業を停止し、破産申し立てのための債務整理に入ったとのことであります。

酒造会社は、糸魚川市定期観光バスの観光コースになっているように、糸魚川のまちづくりや観光誘客活動に大変な貢献があり、再生に向かって頑張っていたきたいものでありますが、営業停止による影響について、本市における取り組みの考えを伺います。

- (1) 酒造会社の観光コースへの対応は。
- (2) 再生に向け、市としてバックアップの考えは。

4 文化財の保護・保存について

文化財は、我々の祖先が今日まで伝え残してきた貴重な財産であり、我が郷土の歴史・文化等を理解するために不可欠であり、文化財を未来に受継ぎ、発展させていくためには保護を行う事が重要であります。

本市の文化財の保護・保存について以下の項目にて伺います。

- (1) 国の有形民俗文化財である「越後姫川谷のボッカ運搬用具コレクション」が、旧根知小学校に保存されているが、今後の保存に対する考えは。

- (2) 指定登録以外の文化財（バタバタ茶・伴家の古文書等）の整理及び登録についての取り組みは。
- (3) 糸魚川地区公民館の地下に置かれている、塩つくりの道具や漁師の漁具の整理及び文化施設への保存について。

笠原幸江 1 「市内のどこでも安心・安全なおいしい水」について

当たり前のように飲んでいる水、水にココロがあるように私たちの生命を守り続けている地球から生まれた母なる命であります。自然界にも変化があります。糸魚川地域において、井戸水から水道水に変わった昭和28年6月28日給水スタート、約50年前子供たちは鉄管ビールと言って炎天下、蛇口からほとばしる水をおもう存分誰しもが飲んだものです。水道法に基づく水道水になって50年、今まさに環境の変化などで飲料水としてペットボトルの水や浄水器から取り出された水が生活の一部になって水に対する関心が高まっています。本市が自信をもって市内のどこでも「安心・安全でおいしい水」を誰でも（旅行者も含む）利用し「糸魚川の水っておいしいね」と評判の水道水になるために市長に伺います。

- (1) 安心・安全な水道水確保について伺いたい。

石綿管使用の現状と対策は。

水質基準項目以外の水質検査を実施の有無。

現在ある浄水施設で全市における安定した供給が維持できるか。

将来に向けた取り組みは。

- 2 公立保育園（所）公立幼稚園に於ける職員（保育士）より臨時職員（保育士）の割合が多く占めている現状とこれからの保育形態について

国では、子供を生み育てる環境を整えるとして、次から次と施策案を小出しにしていますが、保育を取り巻く昨今の本市の環境も合併の先送り調整の中で進められていることと思います。私は、子供を生み育てる環境を整えることは勿論大切ですが、現在既に生まれている子供を大切にする環境を整える事を先に着手しなければならないと考えます。「乳幼児は肌を離すな・幼児は手を離すな・青年は心を離すな」と言われ子供を育てる指針と受け止めている一人です。子供を安心して育てられる環境づくりについて市長の考えを伺いたい。

- (1) 公立保育園（所）・公立幼稚園に於ける職員（保育士）より臨時職員（保育士）の割合が多く占めています。今後も臨時職員を増やすことを考えて運営していく方針ですか。
- (2) 6月9日参議院本会議において可決・成立し、10月1日施行となります。認定子ども園（幼保一元化）と公設民営化について尋ねます。

松田昇 1 障害者自立支援法の対応について

- (1) 4月から施行になっているが、現状と現段階の具体的対応について伺います。
 - (2) 昨年の11月1日現在、身体障害者、知的障害者、精神障害者の手帳所得者は2,773人となっているがどのように対応されたのか。
 - (3) 障害者自立支援法を運営する上でポイントになるのは、認定審査会（二次判定）であります。審査会の構成員が確定されましたが、どのような内容で構築されてきたのか。
 - (4) 通所（小規模）作業所の法人格の問題等を関係者と協議し、格差解消を図りたいとのことでしたが、現状について伺います。
 - (5) 重度障害者の在宅就労支援策について伺います。
 - (6) 障害者福祉計画の策定委員会を新年度早々に立ち上げたいとのことでしたが、現状について伺います。
- 2 動き出した介護保険事業計画について
- (1) この4月から新介護保険事業計画で取り組まれているが、問題点はないのか。
 - (2) 予防介護対象者は地域包括支援センターでケアマネジメント（介護予防プラン）が作成されているが現状について、あわせて運営協議会の基本的な考え方について伺います。
 - (3) 計画では軽度な要支援は要支援1（277人）、要介護1だが、状態が軽度の人は要支援2（550人）に分類されましたが、どのようなサービスを提供しているのか。
 - (4) 糸魚川市介護保険事業計画によると地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護、小規模多機能型居宅介護、介護予防小規模多機能型居宅介護等のサービスメニューが提案されているがどのように取り組まれるのか。
 - (5) 国の方針通りの対応では、要介護状態になる高齢者を減らすことは難しく、障害者も含めた市民全体の福祉を実現することもできないと考えます。その解決のために、糸魚川市に望ましい福祉の形を決め、独自の施策を講じなければ、介護の水準は低下するのではないかと考えますが如何か。
- 3 福祉有償運送について
- (1) 道路運送法等の一部を改正する法律案が、5月中旬に成立し、10月から施行されます。タクシー業界や自治体など地域の関係者が必要と認めた場合、登録制で運営できるようになりますが、どのように認識しているか。
 - (2) 衆議院国土交通委員会で「協議組織が多くの地方公共団体で設置されるよう、関係者に対し、本法改正の趣旨の周知徹底を図るとともに、福祉有償運送の必要性を協議するために設置されている運営協議会についても、多くの地方公共団体の設置が促進され、NPO等関係者の意見等が反映されるように必要に応じて構成員として含めるなど一層の取り組みに努めること」と付帯決議されていますが、どのように認識されているか。

(3) 移動制約者の基本的人権である「移動の自由、外出の自由」を保障するためにも、また福祉活動への市民参加を促すためにも重要な施策だと考えます。移動制約者の責任は誰が取るのか。

4 郵便局の業務変更計画について

市内の4郵便局(市振、小滝、根知、上早川)が行っている窓口業務は残るが、集配業務、貯金・保険業務が近隣の局に変更される計画が予定されていると聞かすが、行政としてどのような取り組みをされてきたのか。また、今後の取り組みについて伺います。

5 糸魚川あるべん村について

(1) 3月議会最終日の行政報告にもありましたが、糸魚川あるべん村は5月31日で休業いたしました。株式会社黒部あるべん村の考え、及び糸魚川市としての対応について伺います。

(2) 行政報告で観光面においてイメージダウンにつながるため、早期に再開をお願いしたいと考えていると述べられていますが、行政の関わりを含めて「道の駅」として再開できないかと考えますが如何か。

田原 実 1 「まつり」を活かしたまちづくりについて なぜ「まつり」なのか

糸魚川市を魅力ある交流都市とするためには、周辺都市に比べて秀でた特色や地域資源にみがきをかけて情報発信し市外から人をひきつける、当市を訪れた人が又来たくなるようなもてなしの仕組みをつくる必要があります。では当市に備わった秀でた特色や地域資源とは何でしょうか。訪れた人が又来たくなるもてなしの仕組みとは何でしょうか。いろいろ考えられますが、市内に数多くある「まつり」に目を向け、文化資源として、観光資源として、多面的にまちづくりに活用すべきではないかと私は思います。また、私たちは市内の地域地域の「まつり」に、大変な思いをしながらも歴史文化を守り伝えることの素晴らしさを学ぶことができますが、その素晴らしさを市民がお互いに認め合うことから、本当の市民の融和が始まるのではないかと私は思います。そこで「まつり」を活かしたまちづくりについて伺います。

(1) 市内の「まつり」は国指定の重要無形民俗文化財をはじめとして全部でいくつになるのか、またどのようなものがあるのか、行政ではどう把握していますか。

(2) 「まつり」を保存継承されるべき伝統文化と考えた場合、合併前の各地区での取り組みを含めてこれまでどのような支援がありましたか。

(3) 今後「まつり」を魅力ある観光資源や新しいコミュニティづくりなど多面的なまちづくりに活用していくとした場合、どのような方法や支援が考えられますか。

2 中心市街地の再生 情報集積のしかけづくり

- (1) 北陸新幹線開通にあわせた「まちの顔」としての糸魚川駅周辺中心市街地の整備において、能生地区、青海地区の市街地商業地域との連携をどうはかるのか、中山間地域との連携をどうはかるのか、いかにして駅周辺中心市街地を再生させるのか伺います。
- (2) 糸魚川中心市街地の活性化など長年論じられてはきましたが、TMO構想促進を含め動きが感じられません。ハード整備事業をおこなうことが困難であるという理由により、市民グループを中心にイベントなどソフト事業を展開していますが、抜本的に商業地域の活性化といえるほどの効果は出ていません。「商店街はまちの顔」という位置づけをしながらも、現場の現実に目をむけてこなかったことや、地域のやる気、商業者のやる気が先という枠組みをつくり、会議とイベントに時間を費やしてきたこれまでの行政の進め方には問題があったと思いますがいかがですか。
- (3) 中心市街地の駐車取締り強化によりますます人気（ひとけ）がひいてしまいかねない状況において、昨年行政が主体となって実施した社会実験などの事業が本当に市民住民のためのものだったのか、あるいは社会実験をしたい関係者のための事業だったのか。それが本当に地域をまきこんだ活性化となったのか、どのように確認していますか。
- (4) 実施設計にかかる通称みいちゃん通り整備事業の状況について伺います。

甲 村 聰 1 旧糸魚川サティ跡地について

- (古畑浩一)
- (1) 現在までの取り組み状況について伺います。
 - (2) 周辺の商業施設の荒廃が懸念されますが、その受け止め方について伺います。
 - (3) 今後の取り組みについて伺います。
- 2 糸魚川地域の渚再生について
- (1) 実施された養浜事業の評価と展望について伺います。
 - (2) 新幹線開業を見据えた観光資源としての見解について伺います。
 - (3) 関係団体との協議の進展について伺います。

久保田 長 門 1 地域再生について

新潟は地域の資源を多く有しながら、それを観光や地域づくりに上手に活かしていないといわれています。糸魚川市もご多聞に漏れずと感じるのは私だけでしょうか。

先の新聞紙上で今後の糸魚川市の姿を予想する記事があるが、自治体として人口規模の割に県内屈指の広大さを誇る（約746km²）、そして森林が約86%を占める糸魚川市は観光資源等が豊富で今後この事を活かし切れるかが、新幹線開通を睨んだ施策の中での大きなポイントであると示唆しております。

私は「地域再生」は地域が主役という見地に立ちその地域住民が「地域の力」を活かし、そして同時に行政との地域再生法に基づく計画とリンクして、その結果観光振興へ繋げるべき事が大変重要と考えるが、糸魚川市が現在どのように考えているか以下の質問を致します。

- (1) 焼山(標高2,400m)登山が閉鎖され、約32年の時が経つと聞くが現状を伺う。
- (2) 住民の熱意が規制緩和の扉を押すと耳にするが、焼山の入山禁止解除に対し、市の考えを伺う。
- (3) 平成17年度統計での観光客数推移では平成12年度2,900,470人が平成16年度2,251,290人で、5年間で78%に落ち込んでいるが今後の課題について、市の考えを伺う。
- (4) シャルマン火打スキー場、シーサイドバレースキー場の営業努力は認めるが産業構造型不況の中、苦戦は否めず現況と今後の課題を伺う。
- (5) 糸魚川市は翠の交流都市づくりの計画の中で市道・広域農道・林道の一体的整備を考えているが目標の一つである中心市街地へのアクセスを向上させ空洞化している駅前に人の賑わいを取り戻す手法として、市内コミュニティバス事業も大切な手段と考えるが駅前の空洞化の現況と、やがて来る新幹線開通に対しての対応と市の考えを伺う。

倉 又 稔 1 総合武道場建設について

当市における体育施設は、野球場、陸上競技場、テニスコートなど屋外体育施設に関しては、充分と言えないまでもどうにか整備されています。

一方、屋内体育施設に関しては、市民総合体育館でさえ総合体育館という名称にもかかわらず、体育館と若干の施設があるだけです。

屋内体育の中には、体育館があれば対応できるもの、体操競技のように、鉄棒、平均台、マットなど多くの用具が必要なもの、水泳のように特殊な施設が必要なものなど様々ですが、学校施設の開放などで、各種体育団体は精力的に活動しています。

当市の、武道にかかわりある施設を調べますと皆無に近い状態ですが、剣道、空手、太極拳は、体育館でどうにか通年活動しています。

弓道、相撲、柔道など、特別な施設が必要な競技においては、1年を通して活動する場がありません。

そこで、剣道、空手、太極拳も含め、通年練習のできる総合武道場の建設はできないものか伺います。

2 地籍調査の取り組みを総合計画基本構想に

国土調査法に基づく地籍調査の必要性は、国のみならず市も承知していることですが、行政が民間の境界紛争にかかわる可能性を考慮した結果、地域全体の合意がなければと消極姿勢になっています。

いつの時代でも、卓越した指導者は地味ではあるが、その重要性を認識して自ら検地を行い、その後の持続的な発展を導いていることは歴史が証明しています。

言うまでもなく地籍調査は現代の検地です。

糸魚川市総合計画を、本年秋の策定に向け作業を進めている現在、国土調査法に基づく地籍調査を総合計画基本構想の「まちづくりの目標」の中に組み入れて推進すべきです。市長の考えをお聞かせ下さい。

野 本 信 行 1 糸魚川市総合計画前期基本計画の中間答申にある「効率的な行財政運営の推進」について、現状と課題の分析に基づき、行政としてどのような具体的な施策を掲げ、検討をしているのかを伺いたい。

(1) 効率的な行政運営の推進について

本年4月の組織機構の改訂による評価について

職員総定員数削減の計画について

事務事業の効率化に向け民間委託化の業務分野について

(2) 効率的な財政運営の推進について

向こう5年間の定年退職者数と退職金について

諸財政指数の改善目標数値設置と評価体制について

入るを量りて出づるを制すの具体的な施策について

2 少子化の進行により、将来当地域産業への人材確保が困難視されるが、企業誘致活動、既存企業の活性化、農林漁業の担い手確保、観光事業の推進等に影響を及ぼすことが想定される。

行政としてどのような具体的対策を講じていくのか伺いたい。

(1) 地元就職促進のための施策について

(2) 既存企業との情報・連携策について

(3) 教育現場との情報・連携策について

畑 野 久 一 1 地方公務員給与のあり方について

(1) 当市における給与制度改革の現状と今後の取り組み方針を伺いたい。

(2) 「仕組み」は国準拠、「水準」は地域準拠の考え方についての所見を伺いたい。

(3) 公正な勤務評定と昇進制度、給与情報の公表システム確立の考えを伺いたい。

2 上越市（直江津）の「中高一貫校」開設に伴う対応について

(1) 開設に向けた準備状況を伺いたい。

(2) 当市の教育委員会における論議状況を伺いたい。

(3) 当市の教育行政に及ぼす影響見込みと対策を伺いたい。

3 糸魚川労働基準監督署存続への取り組みについて

- (1) 高田署への統合方針が判明した以降の対応状況を伺いたい。
- (2) 市内商工団体、労働団体との協議状況を伺いたい。
- (3) 存続へ向けて今後の具体的取り組み方針を伺いたい。

新保峰孝 1 障害者自立支援について

- (1) 準備不足の状態で行われた障害者自立支援法は、三障害(身体・知的・精神)を一本化し、応益負担導入による負担増や報酬単価切り下げ等多くの問題を抱え、施行当初から利用の中止などがおきていると報じられている。当市における影響はどうか。調査し把握しているか。
- (2) 変則的スケジュールが制度をわかりにくくしていると思うが、周知はどのようになされているか。
- (3) 低所得者対策を実施し、利用料や医療費に市の独自軽減策を設けるべきではないか。少なくとも、非課税世帯の人の新たな負担が生まれないようにすべきと考えるがどうか。減免での資産調査は、人権侵害とならないようにすべきではないか。
- (4) 地域生活支援事業は、どのように取り組むのか。これまでより負担が増えることのないようにすべきではないか。
- (5) 高齢化、一人住まいが増える中で、移動が制約される方々が増えている。障害者はもちろん、移動が制約されている方々の移動の自由を確保するためには、ボランティア、NPOの役割はますます大きくなっていくと考えるがどうか。
- (6) 障害程度区分認定はどのように行われるのか。区分認定の位置づけはどうか。1次判定の問題点も指摘されているが、どのように考えているか。
- (7) 自立支援法になって基盤整備が後退し、サービスの選択ができないようなことになったら大変である。基盤整備は今後どのように取り組んでいくのか。
- (8) 障害者の生活を支え、社会参加を実現していくためにも、自治体として総合的に施策を実施していくとともに、今回の制度が障害が重くて働けない人ほど負担が多くなる仕組みとなっていること、応益負担や障害程度区分認定等、国に対しても抜本的な見直しを求めていく必要があるのではないか。

2 情報通信網の整備について

- (1) 地上デジタルテレビ放送が開始され、光通信の伸びも報じられている。放送と通信の現状をどうとらえているか。
- (2) 市財政の現状と将来見通しはどうか。

財政規模と借金

地方交付税をめぐる動き

新市建設計画と新総合計画関連での財源不足について

(3) 情報基盤整備についてどう考えているか。

整備済み施設（既存施設）の事業費、財源、整備区域（戸数）

ア 能生地区ケーブルテレビの生い立ち、町営になるまでの経過。青海地区。

イ 時限立法である過疎地域特別措置法の期限と過疎債、辺地債。

初期整備について

ア 事業費等比較

イ 財源として考えているのはなにか

ウ 市民負担

維持管理費、技術革新に対する対応

更新時整備費

ア 全域整備の事業費総額

イ 財源

整備済み施設（既存施設）と新規整備施設の一体的活用についての考え

(4) 情報通信の将来性についてどう考えているか。

(5) 何を目的に整備するのか。

市民要望との関連

行政課題は、双方向性のある通信でカバーできるのではないかと

能生地区のケーブルテレビの放送内容と整備目的

放送と通信の違いを二つの提案（上越ケーブルビジョン、NTT）でみるとどうなるか。地域ニュースは流せるか。

議会のインターネット中継だけでも早急に実施すべきと思うが、実施するとした場合、費用はどれ位かかるか。

(6) 市は必要最低限の整備を行い、後は民間（NTT）に任せるべきではないか。

伊藤 文博 1 総合計画などの策定経過について

総合計画案や行政改革案の策定業務が進められています。その策定の検討過程について伺います。

(1) この1年間に総合計画の中で検討されなければいけない課題として取り上げられたものは何件あり、主なものには何があったか。

(2) その課題を検討し計画（改善案）を立てる手順はどのように定められていて、どのように行われたか。

(3) その課題がどのように各計画案策定の段階で盛り込まれたか。

(4) 行政改革大綱や実施計画の策定過程に、日常業務の中で浮かび上がった課題がその改善策を含めて活かされるシステムは構築されていて、有効に機能しているか。

2 少子化対策及び子育て支援について

昨年の6月議会で「少子化対策」について質問しました。その後の庁内の検討の進み具合について質問します。

国が担当大臣まで新設して「国の最重要課題」と位置付けているこの問題に対し、糸魚川市では未だにその方向性が見えていません。

地域間競争が言われる中、今後糸魚川市として先例を研究しながら独自の又は特徴ある少子化対策・子育て支援にどのように取り組むのか伺います。

- (1) 須沢地区「子育て支援推進モデル地区」の取り組み事業の検討状況はどうなっているか。
- (2) 「須沢児童クラブ室」の開設についての検討状況はどうなっていて、地元との協議の進行状況は。
- (3) モデル地区の取り組みをどのように全市に展開するのか。
- (4) 糸魚川市独自の、又は、特徴ある「少子化対策」について、その後どのように検討し、現在の考え方はどうなっているか。
- (5) 同様に「子育て支援」の考え方はどうか。

保 坂 悟 1 図書館サービスの充実について

- (1) 障害者サービスについて現状はどのようになっているか。今後どのような取り組みを考えているか。
- (2) 障害者用の資料（図書・雑誌等）郵送サービスの導入についてどのように考えているか。また、一般向けの郵送サービスの導入は考えているか。
- (3) 対面朗読などの図書館ボランティアの協力体制はどのようになっているか。
- (4) 開館日の拡大に取り組む考えはあるか。
- (5) ホームページをもっと分かりやすく作り変えるべきと思うがどのように考えているか。

以上5点について伺います。

2 子育て支援と幼児児童教育について

- (1) 保育園・幼稚園について旧糸魚川・能生・青海の3地域で異なった形態の運営がされております。保育園の入園基準見直しを求めてきた者として、本年10月よりスタートされる「認定こども園」に大きな期待をしております。本市としての取り組み方針をお聞かせいただきたい。
- (2) 幼保一元化にあたり、福祉事務所と教育委員会とで少子化の進行度、地理的なバランスや効率的な職員配置、利用料の設定等の研究検討をするプロジェクトチームが必要と考えるが本市の取り組みをお聞かせいただきたい。
- (3) こどものインフルエンザ予防接種の一部助成について検討をされているかお聞かせいただきたい。

(4) 昨年4月より発達障害支援法が施行されておりますが、当市の現状と取り組みをお聞かせいただきたい。

3 ジェネリック（後発）薬品の周知について

(1) 本年4月より一部、ジェネリック薬品が導入されています。コマーシャルでご覧になった方もいると思います。先発薬品と成分が同じで価格が安いのが魅力であります。市民の医療費削減に効果があると思います。そこで、当市の医療機関に対し積極的に行政から働きかけをしていかなければならないと考えます。また、市民に対してもジェネリック薬品を医療機関で求めるよう働きかけをすべきと思いますが、本市としてはどのようにお考えかお聞かせいただきたい。

4 地区公民館の役割について

(1) 地域審議会で審議されておりますが、「つながり」と「コミュニティ」を重んじられている市長の考える公民館像をお聞かせいただきたい。

(2) 公民館は、生涯学習の場として提供されています。しかし、現状では地域の拠点、行政事務の出先機関、福祉事業（介護予防・子育て支援等）の拠点として役割を果たしております。法的には教育委員会の所管ですが、今後住民ニーズに応じていくことを考えると市長部局に置くことが機能の充実につながるとは思います。お考えをお聞かせいただきたい。

猪 又 好 郎 1 介護保険について

今回の第3期介護保険事業計画は、高齢者を取り巻く新たな社会情勢や多様化するニーズに的確に対処し、高齢者が住みなれた地域で、いつまでも安心した生活を送ることができる地域づくりを目指し、新しい高齢者支援の仕組みと、施策展開の方向性を具体的にすることを目的として、策定（計画の策定主旨より）された。

更に、介護保険事業計画と「老人保健計画」「老人福祉計画」を一体のものとして策定したとされている。

以下次の質問を行う。

- (1) 基本的理念の「高齢者の尊厳を支える地域社会」のなかで地域住民等が、その方の自立を支援できるような社会をめざす、とあるがどのような地域社会を想定しているのか。
- (2) 地域包括支援センターは1施設ではじめたが将来は幾つの施設にする計画か。
- (3) 地域密着型サービスが新たにできたが、これまで行っていたサービスと新たなサービスの分類はどのようになっているか。
- (4) 地域支援事業で介護予防を行うために特定（虚弱）高齢者の把握と抽出をどのように行うのか。
- (5) 介護事業に関わる労働者の賃金は何を基準にして決められているか。

2 非核平和都市宣言について

戦後61年、戦争の悲惨を経験したことの無い市民が7割に達している。そして、この間外国の兵士を一人も殺さず、国民も一人も戦火の銃弾で殺されていない平和が続いている。この平和を永久に続けるために、新糸魚川市で非核平和都市宣言を行うつもりはないか。

3 糸魚川海岸の養浜事業について

旧糸魚川市で行った浚渫土砂投入による養浜事業により海岸の幅も長さも広がっており、効果がでてきている。その後の養浜事業推進について県との話し合いがおこなわれているか。

4 二巡目新潟国体について

二巡目新潟国体で糸魚川市の受け入れ準備を伺いたい。

五十嵐 健一郎 1 生涯スポーツの振興について

(1) 施設の整備充実について

美山球場ナイター設備設置について

- ア ルクスの変更の可能性と県の支援はどうか。
- イ PFI事業の導入はできないか。
- ウ 管理運営体制の見直しの検討はしないのか。
- エ 美山公園全体での対応策の考えはどうか。

(2) 施設の有効活用について

関川・姫川連合水防演習の跡地利用について

- ア 国・県からの支援と市としての方針をお聞かせください。
- イ A～D面も含めた全体構想見直しの必要があると思うがどうか。

(3) スポーツ大会等の開催と誘致について

(4) 競技スポーツの振興について

高 澤 公 1 ボランティア、NPOについて

ボランティア、NPOについて伺います。

ボランティアについては、かつては奉仕活動として行政とは別の立場で行われていたものが多かったように思います。

行政と関わりがあったとしても、それは単なる行政からの声掛けだった様に思います。しかし、最近は様子が変わってきました。行政の事業の一環として計画に組み込まれ、各種ボランティア団体、NPO法人等と協働という形態になってきました。行政の事業の一部が「協働の基に成り立つ事業」として企画されたものが増えてきました。

個々の市民、あるいは市民団体の善意を受け入れる行為「協働」は様々な成果を上げています。又、反面それに伴う問題も発生してきています。

糸魚川市も策定中の総合計画の中にはボランティア、協働の言葉が随所に

出てきます。ボランティア、協働について基本的な考えを伺います。

- (1) 従来の奉仕活動、例えば海岸清掃、公園の草刈りや整備、ゴミ拾い等、資源を伴わない活動への取り組みと、活動中の事故の保障と補償（以下同じ）について。
- (2) 災害ボランティアへの対応マニュアルの有無。
- (3) 学校、児童生徒にかかわるボランティアへの対応。
- (4) 協働事業への対応。
- (5) 糸魚川市はセダン特区を取得し福祉事業の一部である有償輸送サービスを実行するべく進めているようだが、その経過と基本的な考え方。

鈴木 勢子 1 市内の防火シャッター・エレベーターの安全性について

今回の事故で、安全と思い込んでいたエレベーターや防火シャッター（以下、各設備）は、一歩間違えると死とつながる危険性が見えてきました。そこで次の点について伺います。

- (1) 市内公共施設（県営住宅も含む）における各設備数と、その管理方法と安全点検の現状はいかがか
- (2) 防火シャッターについて、2004年の埼玉所沢市内小学校での事故後に、県教委からの点検通知があったが、旧青海町4校での点検が徹底されなかったその理由は何故なのか
- (3) 昨年の建築基準法施行令により、防火シャッターへの安全基準が定められたが今後、既設の安全装置の設置対策はいかがか
- (4) 各設備の設置年数の古い公共施設はどこであるか、また児童生徒を含む利用者への注意事項は徹底されているか

2 地域医療体制の整備について

危機的な地域医療体制については、3月定例会でも取り上げたが、その後の全体的な状況について伺います。

(1) 救急医療体制について

4月から地域の基幹的病院である糸魚川総合病院3名・姫川病院1名の医師減数で、救急体制に影響が生じ、辛うじて地元医師会の協力で体制が維持されているが、この体制は中長期的に継続されていくのか

(2) 姫川病院・糸魚川総合病院の内科診療について

この4月から各病院での内科診療の縮小は予測されていたことが

(3) 糸魚川総合病院産婦人科の存続について

条件としての19年春からの医師1名確保と、分娩200件以上に向けて、その具体的な支援と施策はいかがか

(4) 「糸魚川地域医療体制整備推進会議」について

去る8日に開催されているが、市・県職員らの異動もあり限られたスケジュールの中で、形式的な会議に進んでいくのではないか

(5) 危機的な地域医療体制の中での県予算確保について

当市における福祉地域医療関連の県予算は、他の事業費と比較し余りにも少額である。また、糸魚川総合病院の自助努力にも限度があると当事者から聞いているが、市としてもっと積極的な予算要求を地元選出県議らと行うべきと考えるがいかがか

3 環境対策とゴミ収集の問題点について

今年度に入り、市内で4月・6月にゴミ収集の車両火災が2件発生しているが、その原因はいずれも「市民のルール無視」とされています。

現行の収集方法では再発生の危険性もあり、分別収集の見直しも必要と受け止めているが、事故後の市の対応はいかがか。

6月は環境省の定めた環境月間で、市の環境美化月間でもあります。現行の市内集積所は地域場所によっては景観を損ねて、「翠の交流都市」をめざす中での改善も必要と考えております。

国内外の先進地での集積所での分別方法を例にした抜本的な対策が求められているが、今後の施策はいかがか。

古 畑 浩 一 1 情報基盤整備について

(1) 課題である情報システムの最終的な構想について。

(2) 地域情報イントラについての整備方針について。

(3) NTTの新提案とはいかなるものか。

2 ダチョウ牧場の推進計画について

(1) 昨年12月の一般質問にて提案。その後、協力者が現れ市長・建設産業部長などが現地を視察。

市内候補地、受入れ業者の選定など行ったと聞くがその後の経過と取り組みについて。

3 第二回歌劇「奴奈川姫」上演に向けての基本方針

(1) 新潟県とのタイアップ事業「里創プラン」の経過と打ち切りに至る経過。

(2) 「里創プラン」の計画の概要と予算・決算

(3) 奴奈川楽苑、歌劇奴奈川姫推進委員会の事業内容と位置づけ

(4) 平成20年上演予定の第二回「歌劇奴奈川姫」推進計画と基本スケジュール

(5) 再上演の目的と意義